

地域と大学をつなぐ施設に

星陵オーデイトリウムを公開

東北大学医学部

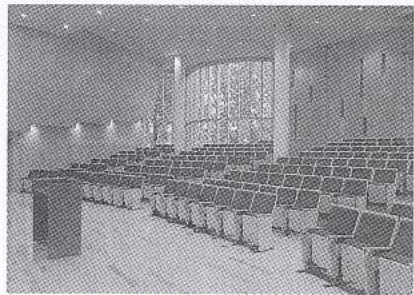
東北大学医学部は8月31日、医学部開設百周年記念ホール『星陵オーデイトリウム』を、今月5日の落成式に先立ち報道関係者に公開した。同施設は「水を掬り叡智を高め、花の香りが満ちるように成果を広めたい」をコンセプトに設計。医学部と同大病院、大学と地域をつなぐための施設として活用する。

星陵オーデイトリウムは、同地にあった学生会館の改修に合わせて合築した。星陵キャンパスの敷地内569平方メートルに、S造2階建て、延べ1008平方メートルで建設。設計は岡田新一設計事務所、T・S・C。施工はビルド、サンテック、テクノ菱和で7月15日に竣工。食堂だけは4月に先行して使用を開始したが、正式には5日の落成式後から全体供用開始となる。

建物は木々に囲まれた空間を創出するため、周囲の

木を可能な限り残して建設。自然光を取り入れ、また木材をふんだんに使用するなど、温かみを感じる内装となっている。2階は講堂、大会議室、2つの小会議室のほか、交流ラウンジと保健室で構成。講堂は280人収容可能で、学術会議などの会合や医学部のイベントで使用するほか、シンポジウムや市民講座の際には一般にも開放する。1階は食堂や売店、エントランスホールやカフェなどが

280人を収容する講堂



入っている。

下瀬川徹医学部長は「医学部創立100周年の節目の年にこのような施設が完成した。星陵地区のアカデミアの中心、シンボルとしての役割を担うことを願う」と期待を込めた。